

◆自民党こまつ◆



吉村範明 委員



動画でチェック

◆ひとものつくり科学館管理運営費

入館者数の推移は。

平成31年度10万1,441名、令和2年度4万9,745名、3年度5万3,832名。今年度は今のところ、平成31年度を上回る見込み。

歳入と歳出は。

歳入全体では9,838万円余、内訳は国の補助金が3,989万円、観覧料や使用料が1,273万円余、基金からの繰入れが4,080万円である。歳出全体では1億4,940万円余、内訳は管理運営費1億178万円、基金積立てが3,800万円である。

毎年、防衛9条交付金を基金に積み上げていたが、今年度は。

令和4年度は9条交付金からの基金積立ては行っていない。

2階のテナントの状況は。その際、誘客動線が必要だ。

現在1業者が参加の意思を表明しており、企画書を提出いただき審査会等で決定していく。

新幹線開業を見据えた誘客促進をすべきだ。

誘客・交流拠点として、MICEの誘致、3Dスタジオのコンテンツ充実や多目的利用の促進、体験教室の充実、全国的なCM配信、料金の検討などの視点で充実を図り、こまつ顔となるよう取り組んでいく。

いきたい。



川崎順次 委員



動画でチェック

◆令和3年度決算

決算の概要は。

歳出総額は、542億円で過去最高。収支は、効率的な予算執行で約6億5千万円の黒字決算。

「財政指標」は、財政の柔軟性を示す重要な数字。うち「経常収支比率」は、対前年度より4.3ポイント改善。未来へ向けた積極的投資のため税収確保が重要。更なる企業誘致推進が必要。

企業誘致など産業創生推進の取組と経常的一般財源を増やす取組の両方を進めることが重要。

令和3年度の「実質公債比率」は1.0ポイント改善、要因は、「将来負担比率」も改善した要因は。

実質公債比率は、普通交付税等が対前年度10億円増となったことが主な改善要因。

将来負担比率は、下水道事業の市債残高24億円減少したこと等が主な改善要因。

基金残高について、主要3基金の残高確保の意図は。

財政バランスを確保し、市政の安定的運営を図るため、残高確保は重要であり、今回の大雨災害でも有効活用され、早急な対応につながる。

令和3年度末の市債残高は。

一般会計で650億円、全会計は1,165億円。

小松に移り住みたいと思う魅力的な子育て支援の実行が最重要課題。中学生全学年実施の給食無償化を小学校全学年まで拡大してはどうか。財政が大きく改善し黒字に転換した。子育て日本一を目指し、学校給食無償化、高齢者支援を含め市長に聞く。

学校給食無償化は、事務事業の見直しや企業誘致などによる財源調整を見極め、来年度当初予算編成で検討していく。子供たちのための政策、高齢者支援も含め誰もが安心して暮らし続けられるまちに向けた政策」を実施していく。

◆無党派◆



片山瞬次郎 委員



動画でチェック

◆幸八幡線整備費

排水状況や雨水調整池機能は。

小松市総合治水対策の推進に関する条例の基準に沿い、雨水の調整池を設置しており、8月豪雨の際もあふれることなく雨水調整機能を発揮できた。

幸八幡線周辺の治水対策は。

近隣道路では冠水が発生しており、周辺の幹線水路・調整池について点検している。今後は流域関係者と協働して治水の取組が必要であり、国とも連動して進めていく。



木下裕介 委員



動画でチェック

◆スマート市役所推進費

近年、安価に大容量のデータ通信ができる携帯プランの登場やコンビニでのWiFiサービスが終了するなどWiFiを取り巻く環境が変化してきている。今後のWiFiスポット整備の方向性は。

費用対効果や通信プランの拡大等を勘案しながら、施設ごとに整備、更新廃止を検討していく。

災害時の通信確保の為に指定避難所へのWiFi整備を求める。

民間の動きも勘案しながら十分に検討していきたい。



橋本米子 委員



動画でチェック

◆北陸新幹線建設推進費

北陸新幹線の現状について。

駅舎建築工事は完了、引き続き電気工事等を行っていく。

国土交通省は費用対効果を0.8としているが市の考え方は。

開業を見据え地価が上昇するというプラス要因もあり、官民一体となつたまちづくりを努めたい。

◆学校給食運営費

調理員転籍人数、経費削減額、現在の直営学校調理員数は。

これまで70名が転籍、民間委託前に比べ昨年度で約1,000万円を削減。現在の学校調理員数は16名。

常任委員会 審査報告

予算決算

委員長 高野 哲郎
副委員長 川崎 順次
全議員所属

議案第42号 令和4年度小松市一般会計補正予算(第4号)について

被災者支援活動費(5,000千円)

8月4日の大雨で被災された方々を支援するため、災害支援のコールセンター開設や被災者支援制度リーフレット作成等に係る費用です。

事業者への支援制度の情報等との一元化や、被災者の心のケアのほか支援チーム職員の健康管理に十分配慮してほしいとの意見がありました。

消防団ポンプ車購入費(40,000千円)及び消防資機材整備費(3,500千円)

浸水により使用が不能となった、第8御幸分団と第13中海分団の消防ポンプ車2台と、小型動力ポンプ2台の更新に係る費用です。

降雨時には、高台へ移送する時間がない場合などもあることから分団車庫の移転も含めて早急な対応を求める意見がありました。

被災事業者再建支援費

(15,000千円)

市内事業者の一日も早い事業再建と事業継続を支援するため、床上、床下浸水の被害にあった事業用建物の消毒経費を助成する費用です。

業者による消毒費用が対象ということですが、事業所によつては、独自で消毒作業を行い費用を負担しているところもあるので、被災者に寄り添いながら支援を行ってほしいとの意見がありました。

現年発生農業施設災害復旧費

(170,000千円)

河田排水機場の機能を復旧するため、仮設ポンプの設置、排水ポンプや減速機、電動機の分解整備、配電盤の製作等を早期発注する費用です。今年度中には暫定的にポンプが再稼働されるということです。

町内道路等災害復旧補助金

(35,000千円)

町道等に対する災害復旧費補助金と、今後の大雨に備え、町内会が購入または借上げする水防資材等への補助金です。

現年発生市営住宅災害復旧費

(10,500千円)

市営住宅の災害復旧に係る費用です。清掃消毒、畳取り換え、床下ピット排水等の修繕、エレベータ電気制御部品の取替復旧工事を行うものです。

電子制御部品の地下ピットの浸水対策を検討してほしいとの意見がありました。

議案第43号 令和4年度小松市一般会計補正予算(第5号)について

12

防災体制強化費(7,000千円)

地域防災計画を始めとした既存の職員対応マニュアルの見直しのほか、利用者に早期避難を促し安全を確保するための庁舎内水防タイムラインを作成する予算で、災害対応を強化するものです。

現在の洪水ハザードマップには山手の一部など掲載されていない地域があることから、早急な更新を求める意見や、要配慮者が直接避難できる指定福祉避難所が、各地域へ広がることを期待する意見が出されました。

シルバー人材センター施設整備費

(13,000千円)

シルバー人材センター事務所屋根等改修工事に係る費用です。今年4月の暴風雨で施設に雨漏りが発生し、腐食が激しいため改修するものです。今回の全面的な改修については長期的視点で検討してもよいのではなにかとの意見が出されました。

小松駅高架下観光交流施設整備費

(60,000千円)

2024年春の北陸新幹線小松駅開業に向けた小松駅高架下の観光交流センターの内、情報ラウンジ整備費です。

市民や近隣の方が利用しやすいよう、物産購入の方には駐車場の割引などの検討を求める意見がありました。

芸術劇場管理運営費(4,800千円)

施設名称を「石川県小松市團十郎芸術劇場うらら」へ変更することに伴う、サイン改修及びパンフレット

作成費用です。

看板やパンフレットは目を惹くようデザインを工夫し、広く全国に発信することを求める意見や、歌舞伎の公演がないときも雰囲気味わえる施設となることを期待する意見がありました。



先代團十郎翁が設計時、監修を行ったうらら大ホール

議案第43号及び議案第64号 令和4年度小松市一般会計補正予算(第5号・第6号)について

現年発生公共土木施設災害復旧費(613,700千円、140,000千円)

8月4日の大雨災害による道路災害復旧及び河川災害復旧の計60件の工事についての測量設計費・工事費です。

梯川本川の流下能力を高めるために早急な河川整備の推進を求めました。また、能美市からの支川があることから、流域住民の安全・安心を確保するため、「流域治水」を求める意見がありました。

今回の被災箇所は、土木施設103か所、農林施設501か所、上下水道施設32か所の計636か所で、336件の未着工は、国の災害査定が未終了であることや、国や県との調整等に時間を要しているとのことですが、一日も早く元の生活に戻れる

よう、被災者に寄り添いながら対応していくことを求めました。

なお、災害ボランティアへ参加できなかった事業者があったとのことですが、参加の有無で今後の入札に不利とならない取り扱いを求めるとともに、スピード感を持った対応を求める意見がありました。

議案第60号 専決処分の承認を求めることについて中 令和4年度専決第3号 令和4年度小松市一般会計補正予算(第2号)について

■堆積土砂排除費(20、000千円)
湊上川流域の中海町、中ノ峠町、仏大寺川流域の遊泉寺町、鷺川町、立明寺町などの道路の路面や側溝に堆積した土砂の撤去処分に係る費用です。
土砂の撤去について、引き続き迅速な対応を求める意見がありました。

議案第64号 令和4年度小松市一般会計補正予算(第6号)について

■市税の歳入(△20、000千円)
8月4日の大雨による災害を受けた日以後に納期が到来する市税の税額について、被害の程度に応じて減免するものです。

被災者支援チームの職員が現地を1軒1軒訪問し、罹災証明の申請の確認等を行っているとのことであり、引き続き分かりやすい説明と周知を求めました。

■被災者生活再建支援金(40、000千円)

国の被災者生活再建支援制度に、市独自の支援策を加え、生活基盤に被害を受けた世帯の生活の立て直しを支援するための費用です。
制度案内を準備が整い次第進めたいとのことであり、速やかな申請ができるような対応を望むものです。

■災害復旧農業者支援費(160、000千円)

災害により壊れた農業機械や設備の修理または更新に係る費用に対する支援費です。

県は、被災した園芸農家を対象にソフト面での支援も行う予定とのことであり、市もソフト面での追加支援を求める意見がありました。

議案第70号 令和4年度小松市一般会計補正予算(第7号)について

■物価高騰緊急支援給付金費(517、700千円)

電気・ガス・食料品等の価格高騰による負担増を踏まえ、特に家計への影響が大きい低所得世帯の負担軽減を図るもので、令和4年度分の住民税非課税世帯、又は家計が急変した世帯に対し、1世帯あたり5万円を支給するものです。
少しでも早く支給できるように望む意見が出されました。

議案第61号 令和3年度小松市歳入歳出決算の認定について

■令和3年度決算全般

歳入は、固定資産税等の軽減措置によ

る市税の減少や国税収入の上振れによる実質地方交付税の増加など全体で554億円余、歳出は新型コロナ対策や新幹線関連事業など建設事業費の執行により全体で542億円余となり、繰越金を除くと約6億5千万円の黒字とのことです。
財政指標の経常収支比率88・8%、実質公債費比率11・9%、将来負担比率18・8%が前年度より改善されていることなどから、学校給食無償化の拡充や高齢者福祉政策の充実を求める意見が出されました。

■一般会計における職員人件費(5、278、394千円)

市民病院や上下水道局等の職員を除く一般会計における職員1、174人(うち会計年度任用職員542人)に係る令和3年度の人件費総額は、52億7、800万円余です。

会計年度任用職員の割合は約46・2%と高い状況にあり、正規職員の増を検討してほしいという意見や、業務に応じた柔軟な採用方法と配置を求める意見がありました。

また、会計年度任用職員制度については賃金単価の見直しなど処遇改善を求める意見がありました。

■住民基本台帳システム運営費(48、880千円)

住基ネットシステムの保守料、リース料のほかマイナンバーカードの作成や管理を行う地方公共団体情報システム機構への交付金等に係る費用です。

一部の委員からは、個人情報の侵害を危惧する理由からマイナンバーカードの普及促進に反対する意見がありました。

■後期高齢者医療特別会計

令和3年度の歳出の決算額は16億1、546万円余となり、対前年度決算比3、200万円余の増加でありました。決算額では545万円余の黒字とのことです。
被保険者数は対前年度比430人の増加で、一人当たりの医療費では県の平均より68、290円低い901、289円のことです。

一部の委員からは、75歳以上の高齢者だけを対象としたこの医療制度について反対する意見がありました。

■119映像通報システム整備費(561千円)

災害現場の画像情報を通報者のスマートフォンなどから指令センターや救急隊等に伝送するシステム整備に係る費用です。

救急現場での確な対応をとれるよう、広く周知を求める意見がありました。

■通学路安全確保費(87千円)

老朽化した通学路安全看板の撤去に係る費用です。

安全のために、権限やセクションにこだわらずにスムーズな対応を求める意見がありました。

■中学校校舎等改修費(100、150千円)

安宅中学校の空調復旧工事、国府中学校の大規模改造工事実施設計、法面保護工事、御幸中学校の講室外壁改修工事実施設計等の費用です。

一部の委員からは、中学校プールの必要性について、市営プールの利用を検討してはどうか、救急救命の観点から水泳の指導にしっかりと取り組んで欲しいと

いう意見が出されました。

■教育相談費(12、392千円)
不登校の児童生徒・保護者・担任・学校等の相談対応及び支援、専門家による土曜専門相談、全小学校配置の心の相談員配置等の費用です。

一部の委員からは、正規職員の配置を求める意見や臨床心理士の給与水準の改善を求める意見が出されました。

■ひととものづくり科学館管理運営費(101、789千円)

歳入総額は98、387千円、歳出総額は149、409千円で、差引51、022千円は一般財源とのことです。

経営状況を踏まえ、よりよい施設となるよう期待する意見や、2階テナント事業者の決定時には、お客様を誘導しやすい動線を望む意見がありました。

■観光ブランド力・誘客促進費(33、074千円)

観光推進団体への負担金や各種イベント開催補助等であり、粟津温泉宿泊者への誘客キャンペーンもこの事業費とのことです。

粟津温泉の「恋人の聖地」の取組は、SNS等発信力がある若い世代に注目されやすいので、環境整備など、支援の検討を求める意見がありました。



■幸八幡線整備費(361、164千円)
幸八幡線整備に係る工事費、用地費などです。

幸八幡線周辺では、8月20日の大雨で内水による浸水があり、過去にも浸水したことがあるため、周辺の地形状況や水路流下能力など総合的な検証・対策を求める意見がありました。

■市営住宅住戸改善費(34、249千円)

吉竹町住宅2戸の住宅改善工事、川辺町住宅の非常用照明器具取替工事などに係る工事費です。

老朽化が進んでいる市営住宅について、老朽化の進んでいるものからPF1による建替の検討を求める意見があり、市では今年度から市営住宅の再編計画の検討に取り組んでおり、来年度作成する住宅マスタープランの中で方向性を定めていくとの説明がありました。

■ワーク・ライフ・バランス推進費(550千円)

市内中小企業で、一般事業主行動計画を策定し、常時雇用する労働者に育児休業を取得させる場合の補助制度です。

令和3年度の実績が6社6名と少ないことから、さらなる周知や実態調査の検討を求める意見がありました。

■市行造林費(30、495千円)

個人の山林を市が50年間借り受け実施する山林保育事業の枝打ち・利用間伐・下草刈りなどに係る管理費用です。山を管理する人が少なくなり、間伐材の活用策など積極的に検討することを求める意見がありました。

総務企画

委員長 新田 寛之
副委員長 二木 攻

委員

東 吉 梅 円 橋 灰
村 田 地 本 田
浩 利 仁 米 昌
一 明 和 志 子 典

■議案第50号 小松市職員の定年等に関する条例等の一部を改正する等の条例について
令和3年6月の地方公務員法の改正を受け、地方公務員の定年年齢を65歳に引き上げることなどで能力や意欲のある職員を最大限の活用と、知識・技術・経験などを若い世代に継承すること等を趣旨として改正を行うものです。

主な内容は、令和5年度からの段階的な定年年齢の引上げ、60歳での役職定年制の導入、定年前再任用短時間勤務制の導入等となります。

役職定年制について、特例として公務上の必要がある場合は管理職として勤務できると規定されていますが、組織の活性化のためにも、しっかりと制度に従って運用するよう求める意見がありました。

■議案第56号から議案第58号の工事請負契約の一部変更について
令和3年9月議会にて議決された、安宅新地区土地区画整理事業の造成工事1工区から3工区までの3契約において、それぞれ契約金額の増額により契約の一

部を変更するものです。

主な要因は、3工区ともに樹木の伐採、防護柵など工作物の撤去、雑草の処分、砂地の施工地盤への対応、埋没物の撤去に要する費用とのことです。

この工事の追加による工期の遅れ等はなく、当初の予定通り今年10月末に完了とのことでありました。

■令和4年度小松市総合防災訓練について
今年度は今江校下にて、周辺地域に対し避難指示が発令されたとの想定で避難・防災訓練が開催されます。

今江校下では消防本部でも防災懇談会を行うことから、意見の共有を図り連携を高めてほしいという意見や、電気自動車

の活用体験の中では利用時の注意点等も含めて体験できるよう検討してほしいという意見が出されました。また訓練時には災害時の注意喚起や防災アプリの紹介のほか、8月4日の大雨では実際に1時間で90mmの雨が観測され、前川では氾濫危険水位を超えたことも住民に伝えてほしいという意見がありました。